John Hewitt, John Thickstun, Christopher D. Manning, Percy Liang ACL2023 Outstanding Paper

発表者:稲葉 達郎

M1, Audio and Speech Processing Lab, Kyoto University

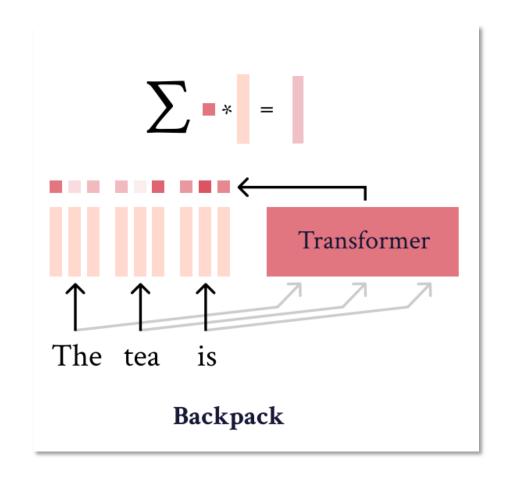
2023/8/27 第15回最先端 NLP 勉強会

#### <u>手法</u>

- 各単語をそれぞれ文脈に依存しない複数の Sense ベクトルに変換
- Transformer により文脈に依存した重みを計算
- Sense ベクトルの重み付き和をとる

#### <u>特徴</u>

- Transformer と同等の性能
- 文脈に依存しない Sense ベクトルを組み込む ことで操作性・解釈性が向上

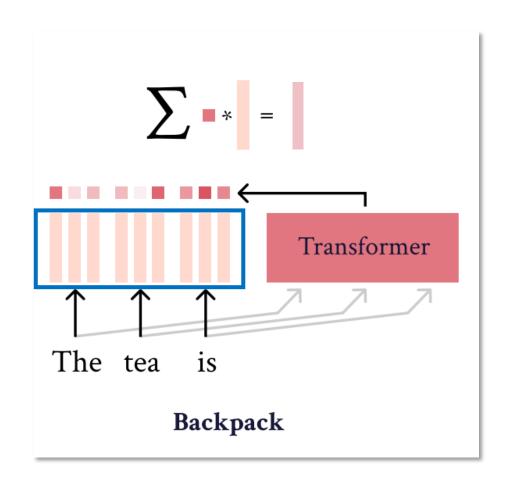


#### <u>手法</u>

- 各単語をそれぞれ文脈に依存しない複数の Sense ベクトルに変換
- Transformer により文脈に依存した重みを計算
- Sense ベクトルの重み付き和をとる

#### 特徵

- Transformer と同等の性能
- 文脈に依存しない Sense ベクトルを組み込む ことで操作性・解釈性が向上

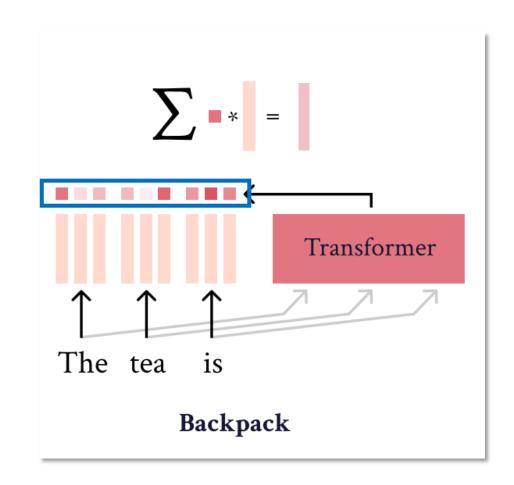


#### <u>手法</u>

- 各単語をそれぞれ文脈に依存しない複数の Sense ベクトルに変換
- Transformer により<u>文脈に依存した重み</u>を計算
- Sense ベクトルの重み付き和をとる

#### 特徵

- Transformer と同等の性能
- 文脈に依存しない Sense ベクトルを組み込む ことで操作性・解釈性が向上

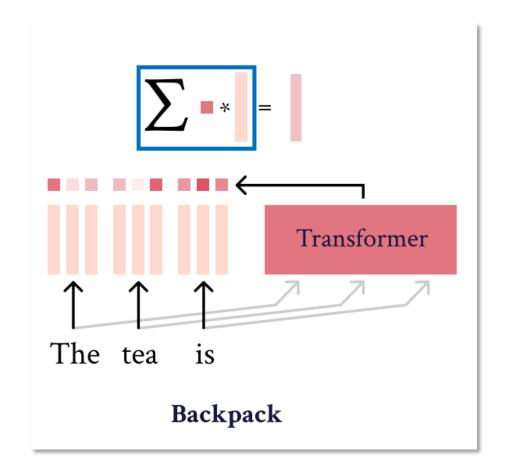


#### <u>手法</u>

- 各単語をそれぞれ文脈に依存しない複数の Sense ベクトルに変換
- Transformer により文脈に依存した重みを計算
- Sense ベクトルの重み付き和をとる

#### 特徵

- Transformer と同等の性能
- 文脈に依存しない Sense ベクトルを組み込む ことで操作性・解釈性が向上

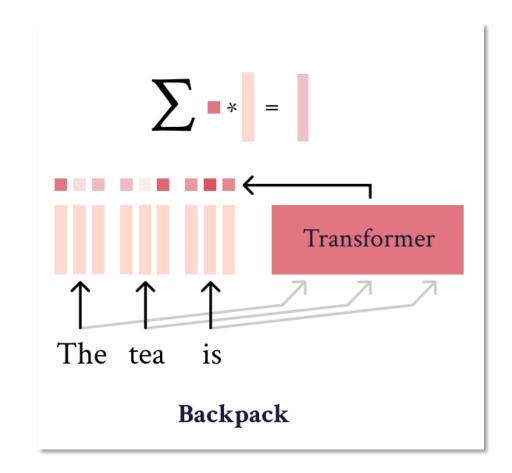


#### <u>手法</u>

- 各単語をそれぞれ文脈に依存しない複数の Sense ベクトルに変換
- Transformer により文脈に依存した重みを計算
- Sense ベクトルの重み付き和をとる

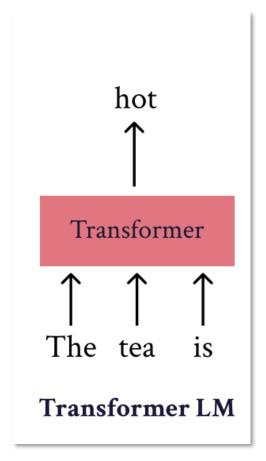
#### <u>特徴</u>

- Transformer と同等の性能
- 文脈に依存しない Sense ベクトルを組み込む ことで操作性・解釈性が向上



#### 良い点

- Attention 層 と MLP 層を繰り返すことで複雑な文脈を考慮した表現を獲得できる
  - 言語モデルはこの表現をもとに、入力文に続く単語を予測

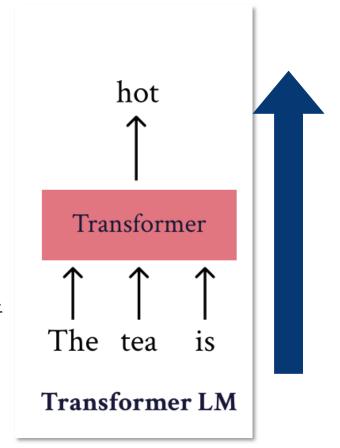


#### <u>良い点</u>

- Attention 層 と MLP 層を繰り返すことで複雑な文脈を考慮した表現を獲得できる
  - 言語モデルはこの表現をもとに、入力文に続く単語を予測

#### 悪い点 😇

- 入力から出力まで一通の処理なので、モデル内部へ介入を行うと基本的に非線形な影響が発生
  - 操作・解釈が難しい

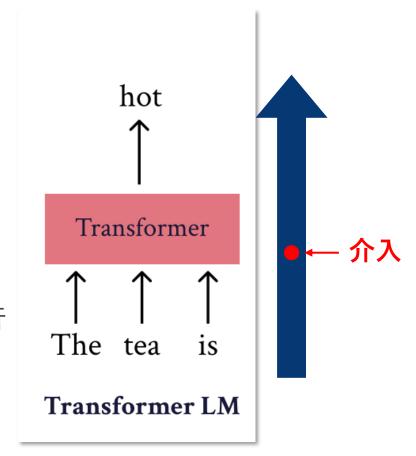


#### <u>良い点</u>

- Attention 層 と MLP 層を繰り返すことで複雑な文脈を考慮した表現を獲得できる
  - 言語モデルはこの表現をもとに、入力文に続く単語を予測

### <u>悪い点</u>じ

- 入力から出力まで一通の処理なので、モデル内部へ介入を行うと基本的に非線形な影響が発生
  - 操作・解釈が難しい

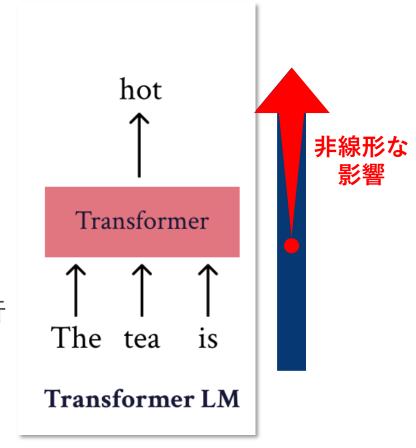


#### 良い点

- Attention 層 と MLP 層を繰り返すことで複雑な文脈を考慮した表現を獲得できる
  - 言語モデルはこの表現をもとに、入力文に続く単語を予測

#### 悪い点 😇

- 入力から出力まで一通の処理なので、モデル内部へ介入を行うと基本的に非線形な影響が発生
  - 操作・解釈が難しい

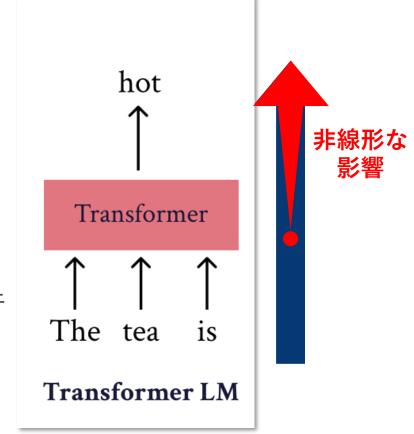


### 良い点

- Attention 層 と MLP 層を繰り返すことで複雑な文脈を考慮した表現を獲得できる
  - 言語モデルはこの表現をもとに、入力文に続く単語を予測

#### 悪い点で

- 入力から出力まで一通の処理なので、モデル内部へ介入を行うと基本的に非線形な影響が発生
  - 操作・解釈が難しい
  - これを頑張って分析する研究も存在 [Meng+, ICLR2023; Serrano+, ACL2019]



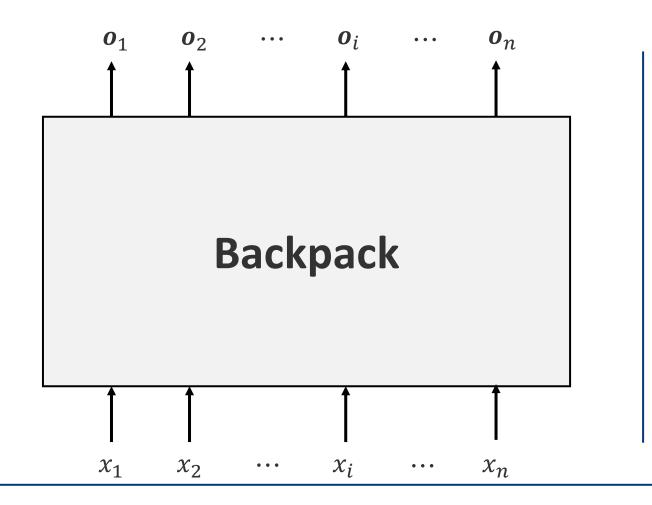
MLP

Attention

# Backpack モデルとは?

### Backpack: 全体像

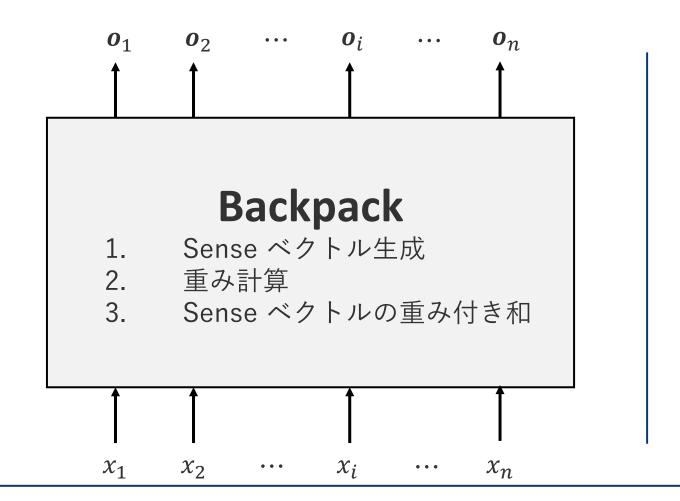
• Backpack は文脈を考慮した単語埋め込み表現の獲得方法



 $\mathbf{o}_i = \mathrm{Backpack}(x_1 : x_n)$   $(1 \le i \le n, x_i \in \mathcal{V}, \mathbf{o}_i \in \mathbb{R}^d)$   $\mathbf{v} \in \mathbf{v}$ Vocabulary

### Backpack: 全体像

• Backpack は文脈を考慮した単語埋め込み表現の獲得方法



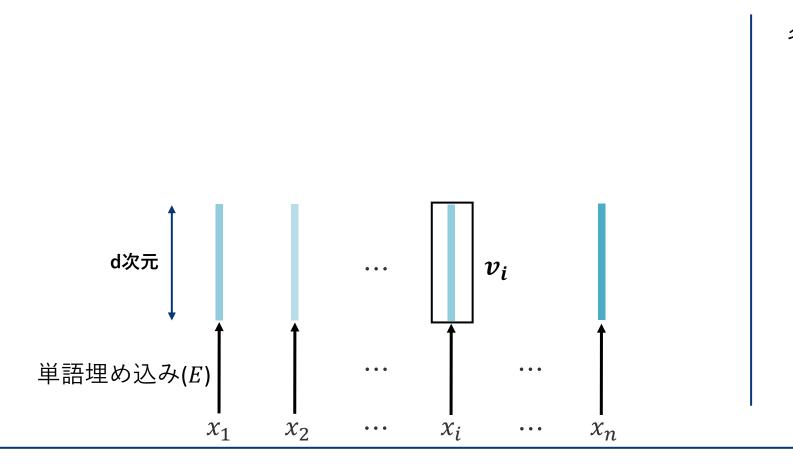
 $\mathbf{o}_i = \operatorname{Backpack}(x_1 : x_n)$   $(1 \le i \le n, x_i \in \mathcal{V}, \mathbf{o}_i \in \mathbb{R}^d)$ 

Vocabulary

1. 各単語をそれぞれ文脈に依存しない k(≥1) 個の Sense ベクトルに変換

 $x_1 \qquad x_2 \qquad \cdots \qquad x_i \qquad \cdots \qquad x_n$ 

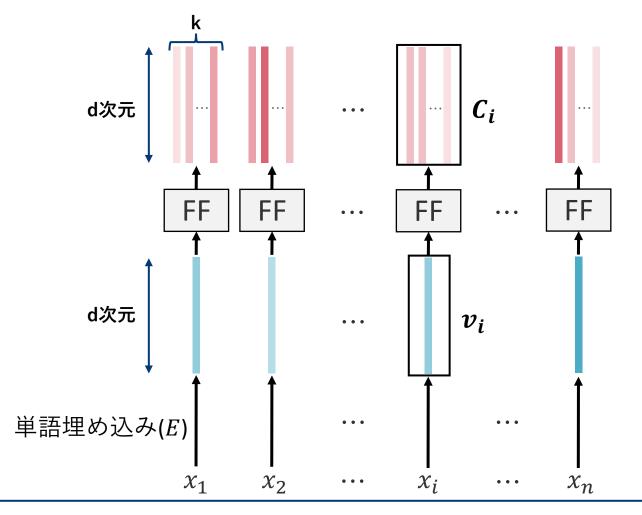
1. 各単語をそれぞれ文脈に依存しない k(≥1) 個の Sense ベクトルに変換



各単語を埋め込み, $oldsymbol{v}_i = E x_i$ 

$$(\boldsymbol{v}_i \in R^d)$$

1. 各単語をそれぞれ文脈に依存しない k(≥1) 個の Sense ベクトルに変換



各単語を埋め込み,

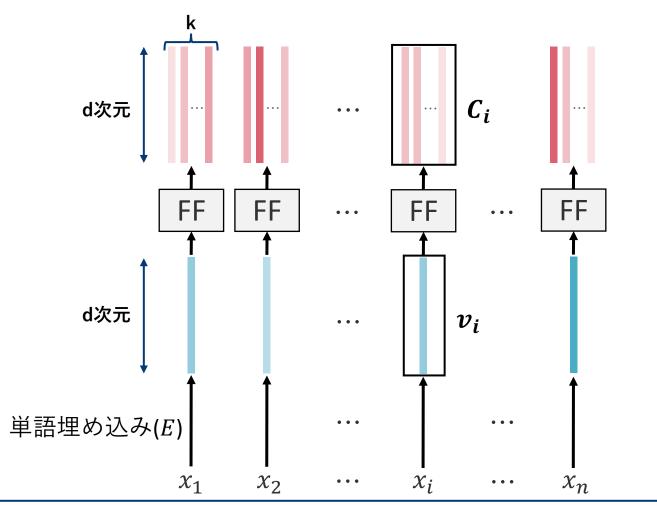
$$\boldsymbol{v}_i = E x_i$$

それを Feed-Forward で変換

$$\boldsymbol{C}_i = \mathrm{FF}(\boldsymbol{v}_i)$$
  
 $\boldsymbol{C} = \{\boldsymbol{C}_1, \dots, \boldsymbol{C}_i, \dots, \boldsymbol{C}_n\}$ 

$$\begin{pmatrix} \boldsymbol{v}_i \in R^d \\ \boldsymbol{C}_i \in R^{k \times d} \\ \boldsymbol{C} \in R^{n \times k \times d} \end{pmatrix}$$

1. 各単語をそれぞれ文脈に依存しない k(≥1) 個の Sense ベクトルに変換



各単語を埋め込み,

$$\boldsymbol{v}_i = E x_i$$

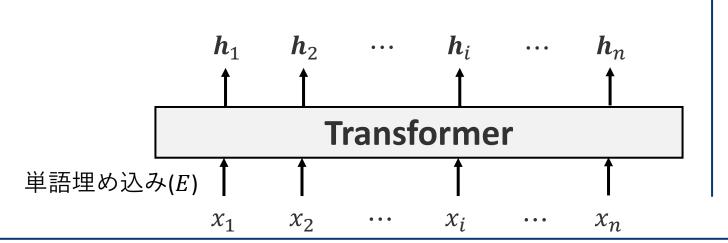
それを Feed-Forward で変換

$$\boldsymbol{C}_i = \mathrm{FF}(\boldsymbol{v}_i)$$
  
 $\boldsymbol{C} = \{\boldsymbol{C}_1, \dots, \boldsymbol{C}_i, \dots, \boldsymbol{C}_n\}$ 

$$\begin{pmatrix} \boldsymbol{v}_i \in R^d \\ \boldsymbol{C}_i \in R^{k \times d} \\ \boldsymbol{C} \in R^{n \times k \times d} \end{pmatrix}$$

### Backpack: 単語から重みへ

2. Transformer により文脈に依存した重みを計算



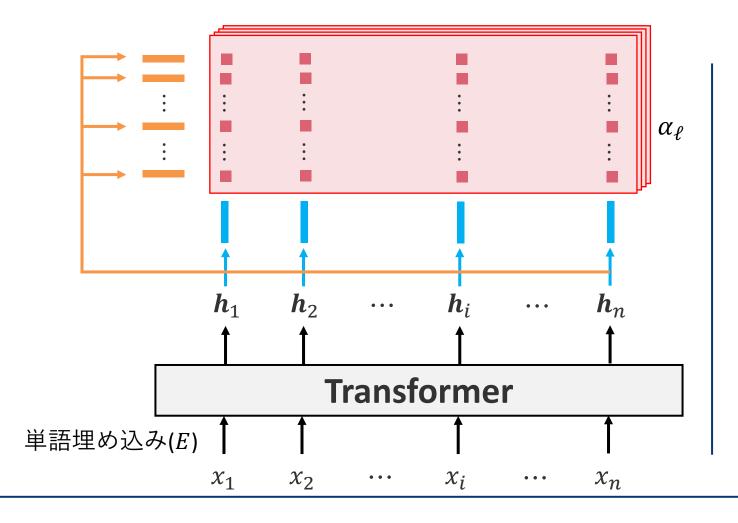
Transformer に文を入力

$$h_{1:n} = transformer(Ex_{1:n})$$

$$(\boldsymbol{h}_{1:n} \in R^{n \times d})$$

### Backpack: 単語から重みへ

2. Transformer により文脈に依存した重みを計算



Transformer に文を入力

$$h_{1:n} = \text{transformer}(Ex_{1:n})$$

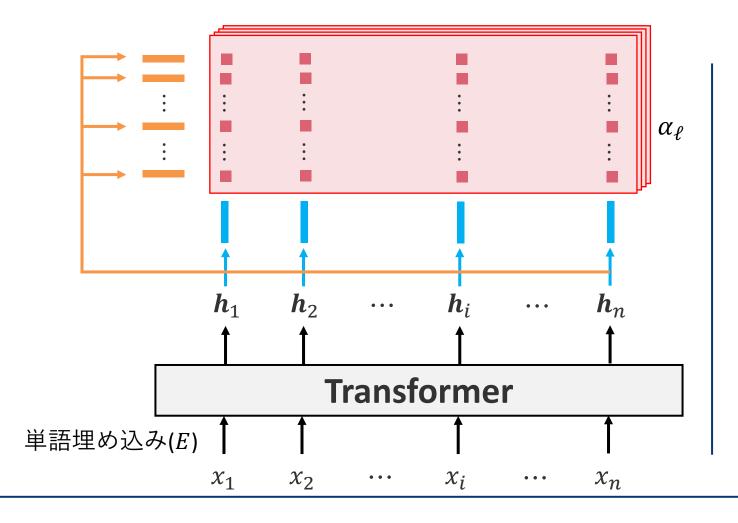
Head 数 k の Attention map を計算

$$\alpha_{\ell} = \operatorname{softmax} \left( \boldsymbol{h}_{1:n} W_{k}^{(\ell) \top} W_{Q}^{(\ell)} \boldsymbol{h}_{1:n}^{\top} \right)$$
$$\alpha = \{\alpha_{1}, \dots, \alpha_{\ell}, \dots, \alpha_{k}\}$$

$$\begin{pmatrix} \mathbf{h}_{1:n} \in R^{n \times d} \\ 1 \le \ell \le k \\ W^{(\ell)}, Q^{(\ell)} \in R^{d \times \frac{d}{k}} \\ \alpha_{\ell} \in R^{n \times n} \\ \alpha \in R^{k \times n \times n} \end{pmatrix}$$

### Backpack: 単語から重みへ

2. Transformer により文脈に依存した重みを計算



Transformer に文を入力

$$h_{1:n} = \text{transformer}(Ex_{1:n})$$

Head 数 k の Attention map を計算

$$\alpha_{\ell} = \operatorname{softmax} \left( \boldsymbol{h}_{1:n} W_{k}^{(\ell) \top} W_{Q}^{(\ell)} \boldsymbol{h}_{1:n}^{\top} \right)$$
$$\alpha = \{\alpha_{1}, \dots, \alpha_{\ell}, \dots, \alpha_{k}\}$$

$$\begin{pmatrix} \mathbf{h}_{1:n} \in R^{n \times d} \\ 1 \le \ell \le k \\ W^{(\ell)}, Q^{(\ell)} \in R^{d \times \frac{d}{k}} \\ \alpha_{\ell} \in R^{n \times n} \\ \alpha \in R^{k \times n \times n} \end{pmatrix}$$

### Backpack: 重み付き和を計算

- 3. Sense ベクトルの重み付き和をとる
- 1 から文脈非依存の Sense ベクトル  $C \in \mathbb{R}^{n \times k \times d}$
- 2 から文脈依存の重み  $\alpha \in \mathbb{R}^{k \times n \times n}$

これらから、Sense ベクトルの重み付き和を計算

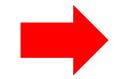
$$\boldsymbol{o}_i = \sum_{j=1}^n \sum_{\ell=1}^k \alpha_{\ell i j} \boldsymbol{C}_{j,\ell}$$

### Backpack: 重み付き和を計算

- 3. Sense ベクトルの重み付き和をとる
- 1 から文脈非依存の Sense ベクトル  $C \in \mathbb{R}^{n \times k \times d}$
- 2 から文脈依存の重み  $\alpha \in \mathbb{R}^{k \times n \times n}$

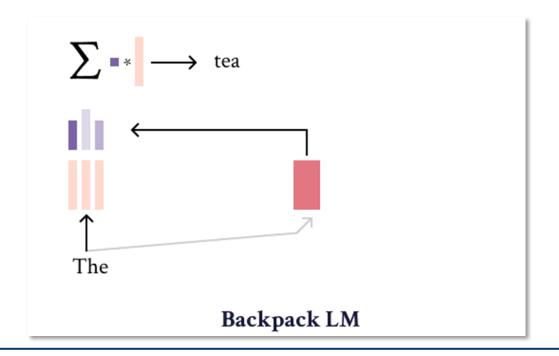
これらから、Sense ベクトルの重み付き和を計算

$$\boldsymbol{o}_i = \sum_{j=1}^n \sum_{\ell=1}^k \alpha_{\ell i j} \boldsymbol{C}_{j,\ell}$$

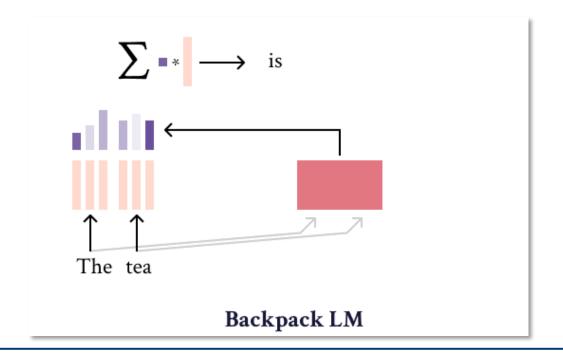


文脈非依存の Sense ベクトルの線形和で 文脈を考慮した単語埋め込み表現を獲得

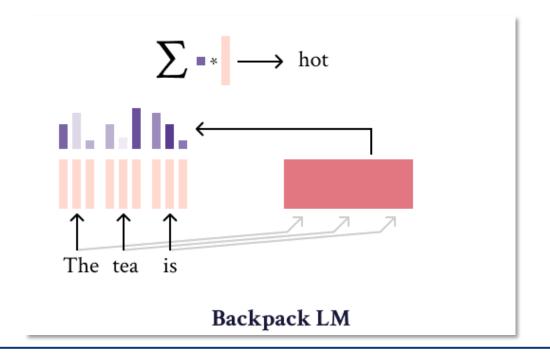
- Backpack を利用した言語モデル
- 重みを Decoder 型の Transformer で計算



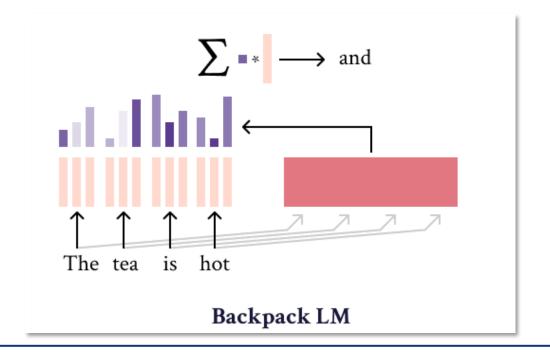
- Backpack を利用した言語モデル
- 重みを Decoder 型の Transformer で計算



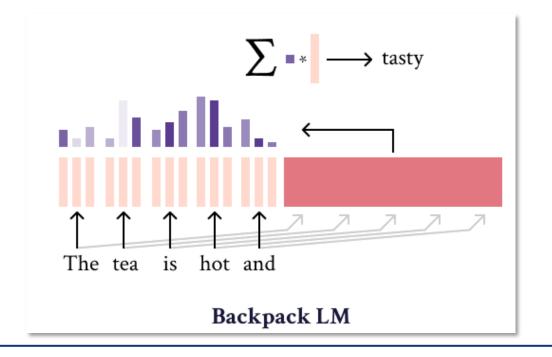
- Backpack を利用した言語モデル
- 重みを Decoder 型の Transformer で計算



- Backpack を利用した言語モデル
- 重みを Decoder 型の Transformer で計算



- Backpack を利用した言語モデル
- 重みを Decoder 型の Transformer で計算



#### モデル

- Backpack-Micro(40M)/Mini(100M)/Small(170M)
- Transformer-Micro(30M)/Mini(70M)/Small(124M)

#### 学習データ

• OpenWebtext コーパス [Gokaslan+, 2019]

#### 評価

• Perplexity 等の基本的な評価指標を使用

#### 結果

- どの評価を重視するかにもよるが、Transformer と同等程度の性能を発揮
  - そもそもパラメータ数が同じじゃないのはフェアじゃない感

Model	OpenWebText PPL↓	LAMBADA PPL $\downarrow$	LAMBADA ACC↑	Wikitext PPL↓	BLiMP↑
Backpack-Micro Transformer-Micro	<b>31.5</b> 34.4	<b>110</b> 201	<b>24.7</b> 21.3	<b>71.5</b> 79.5	75.6 <b>77.8</b>
Backpack-Mini Transformer-Mini	<b>23.5</b> 24.5	<b>42.7</b> 58.8	<b>31.6</b> 29.7	<b>49.0</b> 52.8	76.2 <b>80.4</b>
Backpack-Small Transformer-Small	20.1 20.2	<b>26.5</b> 32.7	<b>37.5</b> 34.9	<b>40.9</b> 42.2	76.3 <b>81.9</b>

# Backpack LM の良い点

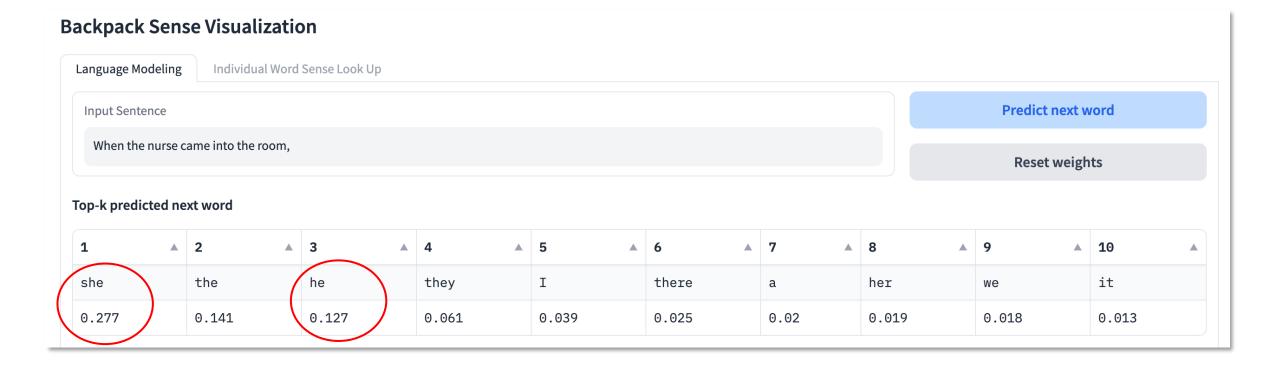
#### 解釈性の例

- "science" という単語を k=16 で Sense ベクトル ( $C_{science} \in R^{16 \times d}$ ) に変換し,それを  $E^{\mathsf{T}}C_{science}$  と投影することで単語の意味(確率分布)を入手可能
  - Sense 7/8 には科学的手法 (replicationやexperiments など)
  - Sense 3 は science の後ろに続きやすい単語 (science denial で科学不信)

A few senses of the word science							
Sense 3	Sense 7	Sense 9	Sense 10	Sense 8			
fiction fictional Fiction literacy denial	replication citation Hubble reprodu Discovery	religion rology hydra religions nec	settled sett settle unsett Sett	clones experiments mage experiment rats			

#### 操作性の例

- "When the nurse came into the room," に Backpack LM を適用
- "nurse"という単語の影響で "She" が来る可能性が高い



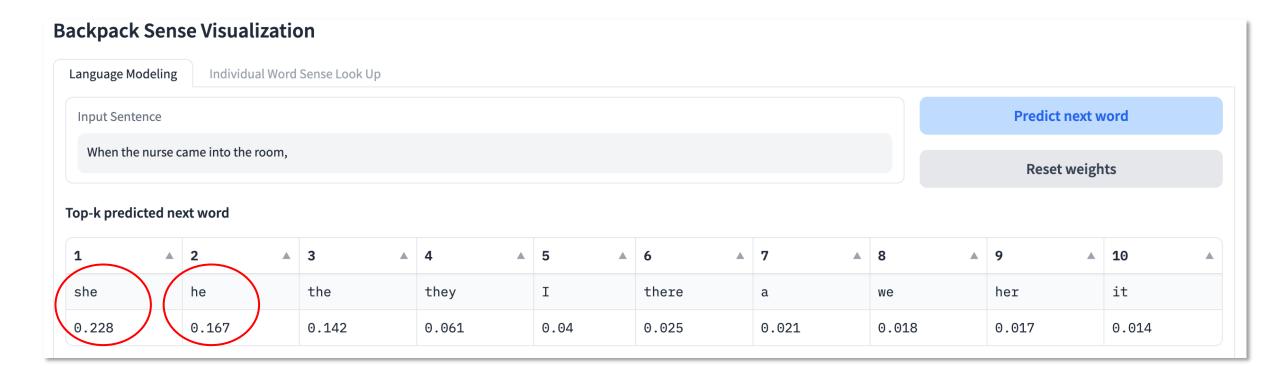
#### 操作性の例

- "nurse"の Sense ベクトルの意味を見てみると,Sense 10 に "She" という意味があった
- この重みを人為的に 0 にしてもう一度次の単語を 予測すると...



#### 操作性の例

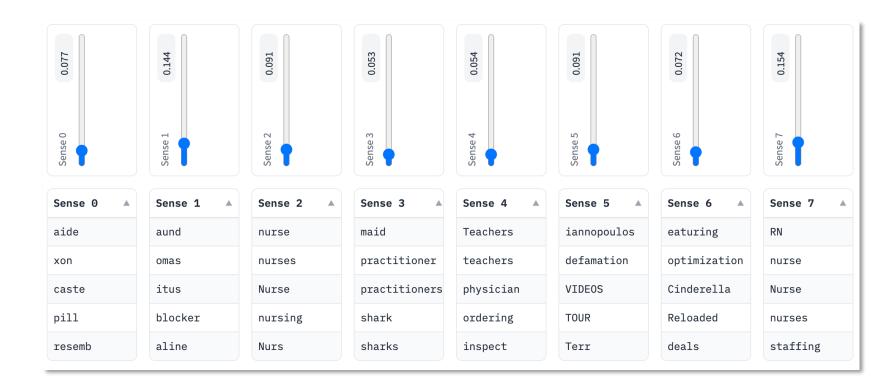
• "She"の確率が低下 (0.277→0.228)し, "He"の確率が増加 (0.127→0.167)



# Backpack LM の注意点

### 注意点1: 完全に解釈可能になったわけではない

- 全ての Sense ベクトルが綺麗に言語化できるわけではない
  - Sense ベクトルが綺麗に言語化されるような学習は行なっていない
  - "nurse"の Sense ベクトル0~7の意味をみるとあまり一般的でない意味も多い



### 注意点2: パラメータ数が増加している

- Sense ベクトルを生成するネットワーク分のパラメータが増加している
  - 例:Transformer-small(124M)→Backpack-small(170M)
- Trainable なパラメータが増えたことにより、ロスの収束に時間がかかる
- 性能が同じだと仮定すると、解釈性と計算コストにトレードオフの関係

### 注意点3: 表現力が下がる可能性

#### そもそも

• 文脈に依存しない Sense ベクトルの線形和を使用し、重みはかならず正となる

#### なので

- 否定的な表現が苦手な可能性
  - 「Sense ベクトルの中にネガティブな意味も含まれていて、その重みが大きくなるはず」と論文では述べているが、ポジティブな Sense ベクトルの方が多いはずであり、それらの重みが0になることはない
- 複数の単語が組み合わさって初めて生まれる意味に弱い可能性
  - これも Sense ベクトルの中にそういう意味を持つものがあり、その重みが大きくなるのかもしれないが、 出現頻度が低い組み合わせだと、k を大きくしないと対応できない感

# まとめ

## まとめ

#### <u>手法</u>

- 各単語をそれぞれ文脈に依存しない複数の Sense ベクトルに変換
- Transformer により文脈に依存した重みを計算
- Sense ベクトルの重み付き和をとる

#### <u>特徴</u>

- Transformer と同等の性能
- 文脈に依存しない Sense ベクトルを組み込む ことで操作性・解釈性が向上

